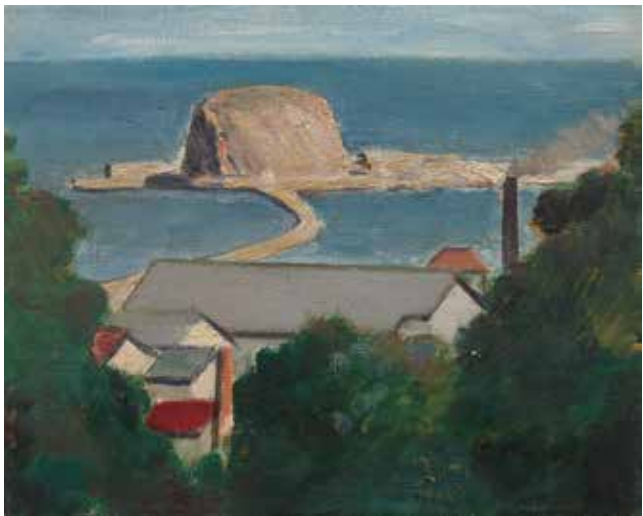


感動一点の場

『網走風景』

1956年 小川原 脩 画



夏も本番が近づき、山々の緑も色濃くなってきた。山に囲まれた倶知安の町ではあるが、ひょいとニセコ連峰を越えれば、海のある風景と出会える。素敵な土地柄である。

7月の祝日・海の日にちなみ、小川原脩の作品に海を描いたものはないか、見直してみた。まず1930年代、美校生の小川原が荒海に向かい描いた「波濤」の数々。その後は「宗谷海峡の漁師」(1953年)、「雷電風景」(1965年)など、数こそ多くはないが、1970年代までの間に度々、海が登場する作品を描いている。

本作は、その中でも珍しい海辺の町を描いた縦横30センチ足らずの小さな風景画。緑がうっそうと茂る高台から、網走市街の建物の向こう、海岸線を眺めている。網走のシンボル「帽子岩」の特徴的な形と防波堤のアーチとがはっきりと描かれている。岩山はその名のとおり帽子のかたちで海にふわりと置かれたように見え、訪れた小川原の印象にも深く残ったことだろう。

明るい日差しを受ける海、海沿いの煙突からは静かに煙がたなびく。爽やかな夏の情景が、小さな画面いっぱいに広がっている。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

一文落とさないオトシブミ

緑が濃くなってきた尻別川の河川敷でさざめくヤナギの葉を見ていると、巻物のように丸められている葉が目についた。丸められた葉はほかにもいくつかあり、その1つに赤い小さな虫が止まっていた。セアカヒメオトシブミという、甲虫の仲間だ。

オトシブミのつくる「文」は揺籃(=ゆりかご)と呼ばれ、幼虫のエサと巣の役割を持っている。幼虫はの中でさなぎ、成虫へと姿を変えてゆく。名前は「落としぶみ」なのだが、種類によって作り方も異なり、地面に落とす種類と落とさない種類がいる。このセアカヒメオトシブミは文を落とさずに、木にぶら下げたまま完成を迎える。

それにしても、チョウヤガの幼虫はたくさんの葉を食べるのに、1枚にも満たない葉だけで1匹のオトシブミが育つのは不思議ではなからうか。実はこれには秘密があって、オトシブミの母虫は揺籃を作る時、葉にたくさんの傷をつけるが、ここに腐朽菌が入り込む。これにより葉が分解され発酵し、食べやすくなるだけでなく栄養価が高まるため、少しのエサでも成長できるのだと考えられている。そこには、母虫の甲斐甲斐しい驚きの工夫が隠されていた。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

第2回ふるさと探訪（観察会）「ニセコの秘境・コックリ湖散策」

ニセコの秘境と言われるコックリ湖。ニセコの森の中で最も原生林の姿を残す森が広がっていますが、クマの生息地であり、なかなか一人では行きにくい場所でもあります。この機会に深い森を皆で歩きましょう。※参加料無料
講師：矢吹 全 氏（ニセコネイチャーガイド・フォレストレック主宰）

日時：7月21日（土） 8時～16時 倶知安風土館集合 定員：先着12名（現地まで公用車で向かいます）

申込方法：倶知安風土館に電話で申し込み

ふるさと探訪

423回

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイメージ I」

小川原脩作品の全年代を網羅しながら、1930年代後半のシュルレアリスム作品から1950年代にいたる作品を充実させて紹介します。

会 期：開催中～8月26日(日)

■企画展示

武内コレクション・プラス展 「ちいさな犬の作品たち」

会 期：開催中～7月8日(日)

しりべしミュージアムロード展「花さんぽ」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する

5つのミュージアムの共同企画展。今年は花がテーマです。

会 期：7月14日(土)～9月24日(月)

※当館は初日観覧無料

荒井記念美術館「ピカソの花」

有島記念館「北の大地に生きる花や草」

木田金次郎美術館「小さな花のものがたり」

西村計雄記念美術館「花と人」

小川原脩記念美術館「花～彩りとあそぶ」



アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

アート探訪〈みて・きいて〉16「小川原脩とルネサンス」

日 時：7月7日(土) 14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・トーク

「ミュージアムロードの画家たち」

日 時：7月14日(土) 14時～14時30分

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：第2展示室（無料）

■ミュージアム・コンサート

「朗読音楽会 月琴で綴る竜馬の手紙～面白き女と妙な男の夫婦物語」

日 時：7月15日(日) 14時～15時

出 演：兎ゆうさん（朗読）

永田斉子さん（月琴・構成）

会 場：当館ロビー（無料）

■土曜サロン

アート探訪〈みて・きいて〉17「ルノワール～世紀末の女たち」

日 時：7月21日(土) 14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■アート・シネマ館

「ルノワール 陽だまりの裸婦」2004年 / フランス

日 時：7月28日(土) 14時～16時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

7月の休館日 毎週火曜日、

9～13日は臨時休館

山と美術に生きた画家

羊蹄山もいよいよ登山シーズン。今年はどのコースから登ろうかと思案中です。これまで、北海道の山をずいぶんと登ってきました。最南端の大千軒岳から東は知床半島の羅臼岳、最北端は利尻岳、そして中央の大雪、十勝、日高の山々と、数十ヶ所のザックも苦になりませんでした。かつては。

山に魅せられた画家は数知れずいますが、その中で北海道の代表格と言えは坂本直行でしょう。六花亭の花柄包装紙をデザインしたことでも知られていますね。開拓の傍ら、原野の草花を慈しみ、はるかな日高連峰に思いを馳せ、その姿を率直に克明に描き続けた直行の生きかたは、私たち山仲間の強い憧れでした。私の中で、山と美術はこんな所でもつながっているのです。

館 長 柴 勤

夏休み期間は小中高生無料

7月25日(木)から8月31日(金)まで、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。夏休みは美術館へ！